

# 平成27年度 上越市生活科部 活動報告

部長 古見 豊

## 1 研究主題

『聴く』ことを大切にし、子どもが思考する生活科の授業づくり

## 2 研究の概要

本年度は、平成27年11月13日に開催された飯小学校の自主研修会「『聴く』ことを大切にし、子どもが思考する授業づくり」における生活科公開授業に学びながら研究主題を深めることとした。

生活科では、活動の過程において子どもが対象にはたらきかけ、対象とのかかわりの中で自分を発揮し、願いの実現に向けて自ら考え、判断し、行動することが重要となる。そこで、子どもがかかわりの中で見せる『聴く』に焦点をあて、授業を通して子どもが思考する生活科の在り方を検証した。

## 3 研究の実際

### (1) 公開授業について

授業者 大坪 千恵子 教諭

単元名 生活科「どうぶつさんとなかよし～めえくんが、よろこぶあそびばをつくろう～」

### (2) 公開授業の概要

飼育しているヤギの「めえくんの遊び場をつくりたい」という共通の願いを取り上げ、遊び場づくりという子ども達が必然的にかかわる場面を設定した。大好きなヤギのために遊び場をつくりたいという願いは共通であるが、イメージする遊び場は様々だった。そこで、自分がつくりたい遊び場を言葉で伝え合わせる。その過程で互いの願いや思いを具体的な形（遊び場）にしようとする姿を「聴いて思考する姿」と授業者はとらえた。

実際の活動では授業者の構想通り、「これはどう?」「手伝おうか?」など、互いに知恵を出し合ったり、「ヤギに喜んでほしい」「こうしたらヤギはうれしいだろう」と話し合ったりしながら遊び場づくりをしていた。子どものヤギへの思いが強ければ強いほど自分の思いを積極的に話し、賛同を求める等、必要感をもって「聴いて思考する姿」が見られた。

## 4 成果と課題

公開授業を通して、「聴く」「話し合う」等の生活科に期待される子どもの姿がより具体的になった。そして、その育成を図る活動展開の在り方や教師の役割も検証することができた。

子どもが生き生きと活動する原動力としての「願い」や「思い」の醸成、さらに互いの考えを「聴く」活動を設定することによって活動がさらに充実するといった一連の授業構想は、生活科の可能性を高め、教育課程の位置づけをより明確化したと考える。

この成果を参加者全員が共有し、日々の生活科授業に生かそうとすることが生活科の充実に資するはずである。その実現に努め、生活科の可能性を高める授業実践を進めていきたい。

